

第3回 ストリートデザイン懇談会 議事概要

日時：令和元年10月29日（火）15:00～17:00

場所：中央合同庁舎3号館6階都市局議室

※事務局及びゲスト委員である栗本氏（豊田市）、西村委員（国土舘大学）から資料に基づき説明がなされた。その後、委員はじめ出席者間において、以下の意見交換がなされた。

[公共空間の居心地の良さと運営・維持管理]

- 市職員には頻繁に現場に行くようにしてもらっている。公共空間は“使ってもらう”方が管理者は大変だが、その裏でどんな変化が起きているか現場で見て欲しい。現場を見ると人間力のある職員は公共空間活用の意義を理解してくれる。そういった個々のマインドに頼ることも必要と感じている。
- また、新とよパークでは自己責任のもとさまざまな活動が行われている一方、市民の安全安心の担保の一環として、市職員自ら自席での常時監視も行っている。
- 維持管理のしやすさやあるいは使いやすさ等、デザイン検討における考慮事項では何を優先すべきか一概に言うことはできない。デザインの現場ではコストが大きな制約となることから、制約の中でベストを目指すことが大事になる。その際、全ての路線・要素において100点を狙うのではなく、地域の実情に応じて優先順位を定めながら、メリハリの効いたデザインを取り入れることが重要である。
- バリアフリーなどの観点などでフルフラットの道路が増えているが、排水設備や点字ブロックの位置について日々の利用やメンテナンスに関わる利便性でトレードオフがあるのではないか。海外のシェアスペースでは日々モニタリングして通行の安全性を確認している。
- 欧米型のシェアスペースを実現するためには、全面車道扱いの道路における黒アスファルト以外の舗装材の採用が交通管理者の現場で認められることが必要ではないか。

[ガイドライン策定に向けて]

- 第5回にはガイドライン全体の目次立てと大まかなフレームを示したい。自治体職員の参考になるハンドブックのようなものを考えており、内容は教科書的にポイントと事例を紹介していきたい。
- 国土技術政策総合研究所等がこれまで取りまとめた資料など、既存の各種資料との関係性や違い等を整理したうえで、今回とりまとめるガイドラインの位置づけを明確化したほうがよい。

- 実際のプロジェクトが時系列でどのように動いたか興味がある。タイムラインのスケール感を示してもらえるとイメージが付きやすい。
- 国がつくっても自治体が受け止められないことあるので、自治体はどうやったら自らの都市で適用するためのガイドラインをつくれるかという示唆もあってよいのではないか。

[そのほか（横展開と指標）]

- パークレットは比較的容易に水平展開できるプログラムであることが特長であるが、現状では個別のプロジェクトとして取り組まれており、見栄えや使い勝手が悪いものも散見されることから、質の高いデザイン手法の確立が望まれる。水平展開を図るのであれば、国または自治体レベルでマニュアルのようなリソースを作成することが有効であり、その際には安全性、意匠性、使い勝手が両立したデザイン実現に向けた関係機関の合意形成が重要となる。
- 指標については、センシングではまだ表情や姿勢は測れないため、指標を作ったうえでどう測るのかまでまとめられればよい。

以上